

# 安全データシート(SDS)

改定日:平成29年7月13日

## 1. 製品及び会社情報

製品名 :クニポリマーA  
会社 :クニミネ工業株式会社  
住所 :東京都千代田区岩本町一丁目10番5号  
担当部門 :管理部 品質保証室  
担当者(作成者) :大谷 洋之  
電話番号 :03-3866-7251  
FAX番号 :03-3866-2256  
電子メール :ohtani.h@kunimine.co.jp  
推奨用途及び使用上の制限 :増粘剤

整理番号(SDS No.) C-2021

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

#### 物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

#### 健康に対する有害性

急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分外

吸引性呼吸器有害性 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分外  
水生環境有害性(長期間) 分類できない  
オゾン層への有害性 分類できない

ラベル表示:なし

注意喚起語:—

危険有害性情報:—

注意書き:

【安全対策】

- ・使用前に安全データシート(SDS)を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
- ・必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
- ・粉塵を吸入しないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急処置】

- ・ばく露またはその懸念がある場合は、医師の手当、診断を受けること。
- ・気分が悪い場合は、医師の手当、診断を受けること。

【保管】

- ・貯蔵場所を定めて、他の物質と隔離して保管する。
- ・水濡れや火気を避け、漏洩の有無を定期的に点検する。
- ・湿気の多い場所をや屋外を避けて常温屋内倉庫に保管する。

【廃棄】

- ・内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に業務委託すること。

---

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	: 単一製品
化学名	: カルボキシメチルセルロースナトリウム(別名 CMC)
成分及び含有量	: カルボキシメチルセルロースナトリウム 70%以上 (その他成分: 塩化ナトリウム、グリコール酸ナトリウム、硫酸ナトリウム)
化学式又は構造式	: $(C_6H_9O_4CH_2COONa)_n$
化審法	: 8-203
安衛法(通知対象物)	: 非該当
CAS No.	: 9004-32-4
国連分類及び国連番号	: 国連の分類の定義上危険有害物に該当しない。
化学物質管理促成法(PRTR法)	: 非該当

---

4. 応急措置

眼に入った場合	: こすらずに多量の清浄な流水で良く洗い流す(できればコンタクトレンズをはずす)。炎症を生じた場合は医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 付着したところや皮膚接触した部位を多量の水や石けんで十分に洗い流す。炎症を生じた場合は医師の手当を受ける。
吸入した場合	: 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、安静に努める。症状が回復しない場合は、医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合 : 清浄な水でよく口の中を洗浄し、状況に応じて医師の手当を受ける。

---

## 5. 火災時の措置

消火方法 : 通常の消火方法。消火の際には適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。  
: 周辺火災の場合は、速やかに容器を安全な場所に移す。  
: 消火作業は可能な限り風上側から行う。  
: 消火放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火剤 : 霧状の水、粉末消火剤、二酸化炭素、ハロゲン化合物など。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 作業に際しては、防塵マスク、保護手袋、保護眼鏡などを着用する。  
: 水に濡れると滑り易くなるため、転倒などに注意する。

環境に対する注意事項

: 漏出処理作業を行う場合、飛散させないように掃き集め、又は掃除機などで吸引して空容器に回収する。  
: 湿らしてもよい場合には、粉塵を防ぐために湿らしてから回収する。  
: 回収した後は、漏洩した場所は水で十分に洗い流す。  
: 漏出した製品や洗浄した排水が河川や沼などに排出され、環境へ影響を与えることのないように注意する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い : 吸入や接触を防止するため適切な保護具(防塵マスク、保護手袋、保護眼鏡など)を着用し、取扱い後は顔や手などを清浄な水で十分に洗浄する。  
: 水と接触すると水を吸って膨潤し、滑り易くなるので注意する。  
: 容器を転倒させ、落下させ、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。  
: 使用済みの空容器は一定の場所を定めて集積する。

保管 : 貯蔵場所を定めて、他の物質と隔離し開封後は密封して保管する。  
: 水濡れを防止する措置を講じ、漏洩の有無を定期的に点検する。  
: 湿気の多い場所や屋外を避け屋内に保管する。

---

## 8. 暴露防止措置及び保護措置

曝露限界値

管理濃度 : 設定されていない。

許容濃度 : 設定されていない(日本産業衛生学会(2016年度版))

: 設定されていない(ACGIH)

設備対策 : 粉塵が作業場の空気を汚染しないように、局所集塵装置の設置や設備の密閉化又は全体排気を適正に行うことが望ましい。  
: 洗眼及び身体洗浄設備を必要に応じて設置し、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器用保護具 : 防塵マスク

手の保護具 : 保護手袋

眼の保護具 : 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護具

皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業着、安全靴

---

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 白色粉末
臭い	: 無臭
沸点	: 該当しない
発火点	: 290°C以上
爆発限界	: 200g/m <sup>3</sup> (下限値)
嵩比重	: 0.3~0.8
真比重	: 1.6
溶解度	: 水に可溶(有機溶媒に不溶)
pH	: 6.5~8.0

10. 安定性・反応性
- |           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 安定性・反応性   | : 通常の取扱い上安定である。           |
| 危険有害反応可能性 | : 自己反応性、爆発性、通常の手扱では安定である。 |
| 避けるべき条件   | : 高温多湿、火気                 |

11. 有害性情報
- |                 |   |
|-----------------|---|
| 急性毒性(経口)        | : ラット LD <sub>50</sub> 27g/kg、モルモット 16g/kg  |
| 急性毒性(経皮)        | : データなし   |
| 急性毒性(吸入:ガス)     | : GHS の定義における固体である。   |
| 急性毒性(吸入:蒸気)     | : GHS の定義における固体である。   |
| 急性毒性(粉塵)        | : 眼や呼吸器を軽く刺激することがある。  |
| 皮膚腐食性/刺激性       | : データなし   |
| 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 | : 異物混入による角膜損傷の可能性がある。   |
| 呼吸器感受性          | : データ不足のため分類できない。   |
| 皮膚感受性           | : 長時間皮膚に付着させるとかゆみを感じたり、赤斑を生じることがある。   |
| 生殖細胞変異原性        | : 陰性  |
| 発がん性            | : 研究レベルにおいて影響は認められない。   |
| 生殖毒性            | : 研究レベルにおいて影響は認められない。   |
| 特定標的臓器毒性(単回暴露)  | : データなし   |
| 特定標的臓器毒性(反復暴露)  | : ラットへの 300-500 mg/づつ 2 カ月間毎日経口投与しても悪影響は認められなかった。ラットへ 100、500、1,000 mg/kg を 2 年間毎日経口投与したが、投与群と対象群の間に差異は見出さなかった。 |
| 吸引性呼吸器有害性       | : データなし   |

12. 環境影響情報
- |       |  |
|-------|--|
| 分解性   | : 生分解性であるため、CMC を含んだ排水は充分能力のある生物処理システムによって処理可能である。 |
| 生態蓄積性 | : 研究レベルにおいて影響は認められない。                              |
| 魚毒性   | : ヒメダカ LC <sub>50</sub> (48hr) 1,000 mg/L          |

13. 廃棄上の注意
- |  |  |
|--|--|
|  | : 少量の場合は、一般廃棄物として廃棄する。                             |
|  | : 多量の場合は、産業廃棄物処理業者に委託する。                           |
|  | : 生分解性であるため、CMC を含んだ排水は充分能力のある生物処理システムによって処理可能である。 |

---

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 : 非危険物

航空規制情報 : 非危険物

国内規制

陸上規制情報 : 非該当

海上規制情報 : 非危険物

航空規制情報 : 非危険物

安全対策 : 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、破損がないよう積込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
: 水濡れを避ける。

---

15. 適用法令

労働安全衛生法

化審法

食品衛生法

飼料安全法

---

16. 引用文献その他の情報

H.A.Shelanski, A.M.Clark, Food Res. 13. 29(48)

I.B.Brick.Amer.J.dig.Dis.16,319,(49)

その他

この安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で注意しなければならない事項を簡素にまとめたもので、通常の手扱いを対象としたものです。

なお、記載内容は安全な取扱いを確保するための参考情報であって、いかなる保証するものではありません。

特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施した上、ご利用下さい。